

Nathan A. Talbot
ネイサン・A・タルボット

ネイト・タルボットは、キリスト教科学
理事会の理事であり、
また母教会の書記である。

キリストは、妄想を破る

Christ breaks the spell

仮に、ジョンとリンダと呼ぶ2人の人がいて、町を歩いているとしましょう。「催眠にかかってみませんか」という店の看板に、リンダの目が留ります。何でも試してみたい彼女です。彼女が店に入っていくと、ジョンもついて行きます。少し話し合ってから、催眠術師は、リンダに催眠をかけます。催眠術師は、この実験で、リンダが催眠から目覚めたときに「青」という言葉を聞くと、否定的に反応する催眠をかけます。そして、彼女を催眠から覚まします。

しばらくして、リンダとジョンが歩いていると、ジョンは何気なく、スモッグがほとんどなく、空が青く輝いていると言います。リンダは、冷たい返事をします、いや、冷酷とも言えるものだったかもしれません。ジョンは、どう思うでしょう？ 笑い流してしまうかもしれません。だって、彼女は、自分のものではない言葉を並べ立てているだけなのだからと。彼女は、何がそんなことを言わせたのか、理解していないのだからと、思うかもしれません。

しかし、リンダの、「青」に対する反応が、もっと強いものだったらどうでしょう？ もしも、それが彼のほほを平手打ちするようなものだったらどうでしょう？ ジョンは、もう笑って済ませる余裕などないかもしれません。もう自分とは無関係のものとは、考えにくいかもしれません。

リンダの行動は、人間の心がいろいろな意味で、非常にもろいものであり得ることを示しているのでしょう。彼女の経験は、傷つきやすい人間の感受性、もろさを示しています。つまり、一言で言えば、人間の心は、振り回され、時には誤用され、乱用されることもあるということです。

私たちは、ときには、自分らしくない行動を取ってしまうことがあるのではないでしょ

うか、ふと起こった思いに心を乱され、それに反発してしまうのです。ある人々は、それは、脳の中で働く電子化学作用によって、造り出されるものだと言うかもしれません。他の人々は、考えの源を定義することは、遺伝や環境まで含み、計り知れないほど複雑なものであることを示唆します。

聖書は、次の洞察を与えています：「わたしがあなたがたに対してにしている計画はわたしが知っている。それは災いを与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである」（エレミヤ 29:11）。もし、これが本当なら、どうでしょう？ つまり、神が無限の意識であり、従って、すべての真正の思考は、いつも純粋で、神のようであったら、どうでしょう？ そしてもし、それ以外のものはすべて、人工的で、神の存在には属さないものであるとしたら、どうでしょう？ 例えば、意識は、ごく自然に神性の思考を現すものだとしたら、どうでしょう？ それでは、それ以外の思考とは、どういもののでしょうか？ 聖書は、ある箇所で、この疑問に、次のように答えています：それは「肉の思い」であり、つまり、「神に敵する」（ローマ 8:7）ものである。それは、無限の善、つまり霊の存在に対する、仮想上の敵意のようなものだということになります。

従って、私たちの真の、通常の、神からきた思考状態は、善意に祝福されているのかもしれませんが。それなのに、異常なものに影響されやすいとされる、いわゆる「肉の思い」が存在するかのように思われるのです。もしかすると、この「人間の心」は、催眠にかかりやすい心的状態で、神に似ない考えを吸収し、それに反応しているのであると、説明できるかもしれません。これらの思考は、

やや不親切であったり、多少怒っていたり、また、激しい敵意に満ちたものであったりします。リンダの経験に示されているように、これらの思考は、本来、その人とは「無関係」のものなのです。それは、肉のもの、物質のものであって、本来霊的ではないのです。また、私たちは、ときには、ジョンの立場にあって、誰か催眠にかかっている人に、平手打ちをくらわされたように思うこともあるでしょう。

物質的思考の人には、こんな考え方はとんでもないと思われるかもしれませんが。しかしながら、もし神に似ない考えはすべて、実は、実質のない、効力のないものだとしたら、どうでしょう？ そして、もし、神に似た思考すべてが、真に実在するのだとしたら、どうでしょう？ 実際、私たち人間は、これに近い状態で生きているのです。神に似ない思考、そして、そこから生じるもろもろの現象は、催眠にかかった体験なのです。恐れる、悪い、混乱した、怒りの思考と、それらがもたらす現象は、実在しない、幻想の上に築かれた心の世界なのです。

私は、聖書は、私たちにこの事実を理解させようとしているのだと思います。つまり、神の考えの現実が見えるように、助けてくれているのです。使徒パウロは、肉の心が正当であることを否定し、「わたしたちはキリストの思いを持っている」ことを保証しました（第1コリント 2:16）。しかし、催眠にかかった心の状態は、自分は、キリストに似ないことを、いくらでも考えたり、行なったりできると考えたり、神不在の多くの事柄の犠牲になったと思ひ込んでしまったりします。それらの神に似ない思考は、人に属すものではありません。それらは、本当は私たちのものではなく、神の子ら誰にとっても、本当のもの

のではないのです。メリー・ベーカー・エディは、次のように書いています：「この地上の錯覚を解くために、人間は、現実存在して宇宙を調和よく支配するすべてのものの、真の理念と神性原理を得なければならぬ」（『科学と健康一付聖書の鍵』、p. 39）。

キリスト・イエスは、このような思考の妄想を指摘するとき、厳しい言葉を使いました。それを、「偽り者」と呼び、さらに「彼のうちには真理がない」（ヨハネ 8:44）と言っています。聖書の中で、悪魔やサタンと呼ばれるものは、実は、肉の心にすぎないのです。それは、催眠にかかっている思考状態で、神に、また、神の無限の、常に現存する善意と完全性に、反対するものです。

イエスは、キリストの力をもって、病と罪、さらには、死と死滅性の妄想を、幾度も幾度も破りました。彼は、この一般に受け入れられている思考状態には、何の合法性もないことを知っていました。これは、今風に言うと、催眠術とか動物磁気と呼ばれるものです。つまり、実在についての誤った見解です、実在を、完全な霊ではなく、崩れやすい物質であるとする見解です。

この霊的真理の重要性について、考えてみてください：*あなたの真の意識は、恒久的に、そして変わることなく、平和で、完全で、無垢なのです。*この霊的現存の継続を邪魔しようとするものは何でも、あなたが催眠にかけられ得るという信念です。それは、あなたが病気だったり、怖かったり、怒ったり、罪深くあったり、無知だったり、貧しかったりすると感じる、という幻覚です。それは、肉の心、「地上の錯覚」の、催眠的な攻撃で、あなたが、神に反する考えを持ち得る、あなたが神の似姿として完全であるという考えに反対する考えを持ち得る、という暗示です。

イエスの生涯は、どのようにして私たちが意識を守ることができるか、その真の道を例示しました。催眠にかかった思考を全く持たず、自由であることが、何を意味するかを示してくれました。そして、もし、そんなものの犠牲になったとき、どうやって解放さ

れ得るかを示してくれました。彼の生涯は、究極のキリストらしさ、そのものでした。

キリストとは、神に促されて、意識のなかに真理が現れ、真実で恒久的のものすべてに光を当てることだと、考えることができます。メリー・ベーカー・エディは、「キリストは、善を告げる真の理念である、すなわち人の意識に語りかける、神から人への神性の伝言である」（『科学と健康』、332）と言っています。彼女は、「その声を知り、自分たちはキリスト者であると言う人たちの意識に語りかける」とは言いません。キリストは、例外なく、人の意識に語りかけるのです。それが、認知されないかもしれませんが、無視されたり、抵抗されたり、ときには拒否されることさえあるかもしれませんが、しかし、キリストはすべての意識に語りかけているのです、そして、究極的には、この澄んだ、明解な、純粋な真理が、すべての人のために、催眠状態の考えを制覇するのです。確かに、すべての人が、最後には、自分のキリスト的本性を感知するのです。

この世界は、明確なキリストに根ざした意識に、さまざまな形で抵抗します。ある人が、他の人に、批判的な態度を示すようなこともあるでしょう。それが、暴力的思考や行動にまで発展してしまうこともあるでしょう。そのような考えを、多くの人が示しているかもしれませんが、ときには、社会全体が、他のグループや、部族、社会に嫌悪感をもってする場合もあります。これは、考えが、催眠状態にあるということです。そして、嫌われている人、また嫌われている集団が、反応して、催眠状態に引きずり込まれている場合もあります。

嫌悪は、明らかに、イエスの性質とは無縁のものでした。イエスは、自分に対して非常な敵意を覚えていた人々の憎悪（その他いかなる種類の催眠的思考）にも、反応しませんでした。神に動かされた彼の愛と許しの模範が、彼の「山上の垂訓」（マタイ 5～7章）に、はっきりと示され、そして、福音書に記録されているように、彼の生活のなかで実践されています。それは、意識が

どのように悪から守られ、善を現しているかを、示しています。

実際、キリストは、人の意識に多大な影響を与えています。どんな状況下にあっても、キリストらしさが、世界中で、膨大なスケールで、霊的愛情、正直、善行、無垢、喜び、活力あふれる生命、美、平和として、現されています。人類を真に均衡のとれた目で見るとは、ある母親が子どもを思う愛情、ある社員が職場で下す正直な決断、ある若者が英雄的行為に向けられる注目を断る謙虚さなどが、ごく普通に示されることなのです。もし、このような典型的な映像が、日々、もっと私たちに紹介されていれば、人々の世界観はこれほど動物磁気的な催眠術でゆがんだものではなくなることでしょう。

真理の実在を、もっと充分に垣間みる方法があります。キリストは、すべての意識に、それを語りかけているのです。私たちは、自分たちばかりではなく、すべての人の、真のキリスト性を見る権利、知る権利のために、祈ることができます。私たちは、キリストが、私たちみなに、何を現しているのか、そして、どのように、地球の錯覚を解いているのか、認識できるように祈ることができます。キリストは、私たちが、この真理の啓示と符合した生活ができるように、変革する影響力をもっています。

リンダを、睡眠状態から目覚めさせたとき、催眠術師は、ただ指をパチンと鳴らしたただけでした。私たちを、この世的な見解から、神の実在の意識に、目覚めさせるものは、何なのでしょう？ キリストの救いの働きが、意識の中で明らかになり、私たちを眠りから目覚めさせることだと、あなたは、言うかもしれません。

エディ夫人は、幻想である死滅性が次第に崩壊してゆくを見て、「この目覚めこそ、キリストが絶えず到来している」（『科学と健康』、p. 230）ことであると書き、私たちを勇気づけています。キリストは、あなたの意識に、語りかけているのです。今こそ、目覚めるときなのです。✿